

平成 29 年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	基礎学力の充実に 向けたバランスの とれた教育課程を 編成するとともに 多様な生徒の進路 希望に対応する質 の高い学習指導に 取組み、生徒一人 ひとりの学習機会 の拡大を促進す る。	ICTの利活用を 推進し、60分授 業に対応した授 業内容・学習指 導方法を研究 し、生徒の基礎 学力向上を図 る。	教科ごとに研究内容を設定 し、研究授業を積極的に行な う。また、その成果をとりま とめ校内研修発表会を行な う。 60分授業に対応した時間割 編成・調整を行い、授業時間 数の均等化および学習時間の 確保を図る。	生徒及び教員を対象 にしたアンケートを とり、ICT利活用の 推進や60分授業によ って学習成果が上が ったか調査する。	①60分授業に対 応した時間割編 成を行い、1単 位1,750分を十 分に確保するこ とができた。 ②ICT利活用や 60分授業につ いて各教科への対 応について各教 科で研究を進め た。	①学校行事や祝祭日の 日程に変化がある中で 授業時間数の確保を継 続して行う。 ②基礎学力の充実とと もに生徒の多様な進路 実現のため、ICTを利 活用した授業改善につ いて組織的に研究推進 する。	・生徒の学力を向上さ せるとともに、状況判 断・決断力を身に付け させる必要がある。生 徒の成長の変化が見ら れるところまで到達さ せることが大事であ る。	・各教科でICT利活用 授業の授業改善を推進 するとともに、60分授 業を行うことで、1単 位1,750分を確保する ことができた。 ・朝自習に加え Classi の効果的な利用方法を 研究推進する必要があ る。	・ICTを利活用した授 業を教科内で共有する ことで、生徒に学習内 容の理解を促し、主体 的な学びにつなげてい く。 ・各教科でClassiを 使った授業の研究を推 進し、その効果を検証 する。
2 生徒指導・ 支援	①自転車マナーの 向上を積極的に進 め、交通安全に対 する取組みを組織 的に推 進する。 ②生徒の自主的・ 主体的な活動を支 援し、豊かな人間 性や社会性を培う 活動内容の充実を 図る	①登下校の自転 車利用における 交通安全指導を 徹底する。地域 と連携した交通 安全指導を推進 する。 ②生徒会活動・ 委員会活動・部 活動の活性化を 推進する。	①登下校時の交通安全指導だけ ではなく、下校時も不定期に 危険な箇所立ち、交通規範 遵守の精神を養うとともに、 マナーアップを図る ②体育祭の所属チームに継続 性を持たせる。また、生徒会 と文化祭・体育祭の実行委員 会の連携を強化する。 部活動の加入率を上げる。途 中加入の機会を設ける。	①事故、及び近隣住 民からの指摘をゼロ にすることができ たか。また生徒の自 転車運転規範遵守、マ ナーアップの意識の 向上が見られたか。 ②体育祭のチームで の練習が活性化し たか。 部活動の加入率が上 がったか。	①事故、外部か らの指摘をゼロ にすることはで きなかつた。交 通安全指導の回 数を増やしたた め生徒の自転車 運転規範遵守の 意識が向上し た。 ②体育祭応援団 練習の早期化・ 活性化を図 った。次年度から は1学年が応援 ダンスに参加で きるようにし た。年度途中に も部活動仮入部 期間を設けた。	①職員・保護者・地 域・警察との連携を強 化するとともに、生徒 自らが交通安全啓発活 動を積極的に行える組 織づくりをしていく。 ②来年度は応援団の規 模が大きくなり、会計 面や規律面でのサポー トが必要になる。 部活動の加入率をさら に上げるために入学 時、年度途中の声掛け に加えて合格者説明会 から部活について興味 を持たせる工夫をする ことで、入学当初の加 入率を高めていき たい。	・自動車の運転手から 見ると、自転車の危険 性がよくわかる。自動 車教習所とタイアップ する等、自転車と反対 の立場からの交通安全 指導を取り入れてはど うか。 ・ダンス部の発表を見 たが、よく指導されて いる。今後の活躍を期 待している。	①登下校時の自転車事 故は依然として多い。 乗車マナーについて 地域の方々からの指摘 が多かったが、登下校 時の交通安全指導を増 やした結果、乗車マナ ーは向上し、地域の 方々からの指摘は減少 した。 ②色別応援団練習等 の日程の見直しこと により、体育祭への年 間の取組がスムーズに なった。 年度途中の部活動加 入促進期間を設けた。 また、3つの同好会が 新設された。	①平成30年度は相模 原地区交通安全高校 生・PTA大会の事務局 校となるので、この機 会を捉え、生徒自らが 交通安全啓発活動を積 極的に行う環境を作る とともに、年間を通じ た交通安全指導を地道 に行っていく。 ②生徒会活動におい て、行事等での課題を 共有し、必要に応じて 改善を図っていく。 部活動の加入を促進し て、一層の活性化を図 る。
3 進路指導・ 支援	社会的・職業的に 自立できる力の醸 成を図り、生徒一 人ひとりが主体的 に進路を考える姿	生徒の職業観・ 勤労観を育むキ ャリア教育プロ グラムを充実さ せ、生徒が主体	1学年では、調べ学習、講話 等により広く職業について学 習する。 2学年では、体験学習、説明 会等により職業観を養う。	キャリア教育プログ ラムが計画通り実施 され、各学年とも生 徒が主体的に取組 んだか。特に3学年で	1・2学年では 生徒が主体的に 取組み、職業観 を培うことがで きた。3学年で	各学年の活動におい て、消極的な姿勢の生 徒への指導を行う。高 大接続、入試改革の課 題への対応を行う。多	・大学入試改革には、 大学の組織改編も含ま れている。学部や入試 制度の細分化による、 生徒と大学のミスマッ	キャリア教育プログラ ムに則り、1・2学年 では生徒が主体的に取 組み、職業観を培うこ とができた。3学年で	・高大接続改革に合わ せ、進路指導グループ と学年との連携を一層 密にし、組織的・継続 的に進路指導を実施す

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		勢を育むキャリア教育の充実を推進する。	的に進路希望の実現をめざすよう指導する。	3学年では、自己の進路実現に向けた個別の活動を実践する。	は、自己の進路実現に向けたプログラムが展開されたか。	は、進路実現に向け積極的に活動した生徒が多くみられた。	様化、早期化する受験方法について、的確な保護者への伝達及び情報提供を行う。	チを避けるため、生徒の適性、生徒本人の期待・環境を整理していく必要がある。	は、進路実現に向け積極的に活動した生徒が多くみられた。	るとともに、定期的に分析・対策を行いながらキャリア教育を推進する。
4	地域等との協働	P T Aとの連携、地域、企業の教育力の活用などにより学校理解の促進を図るとともに、地域に開かれた地域とともにある安全・安心な学校づくりを進める。	①P T Aと連携して、生徒が地域と交流・連携することで、生徒に協働することの大切さと地域の一員である自覚を持たせる。 ②本校の教育活動を積極的に家庭や地域に情報発信する。	①P T A活動において、生徒会や自治会等と連携し、地域夏祭りへの協力や地域貢献デーの清掃活動などの連携事業を計画・実施する。 ②鶴園小学校のP T A行事ドリームフェスティバルに参加する。 ICTを利用して広報活動、体験学習の更なる充実を図る。	①連携事業が実施できたか。また、具体的な成果はあったか。 ②ドリームフェスティバルへの生徒参加状況とHPでの広報を行う。 学校説明会でICTを効果的に利用し、本校のICT利活用授業実践推進を発信できたか。	①P T Aの委員会が地元のふるさとまつりに参加した。また、地域貢献デーの清掃活動では、P T Aの美化委員会や同窓会役員も参加した。 ②地域の行事にダンス部の生徒が参加し、小学生にダンスを披露するなどした。	①地域との連携事業は、内容の工夫があったものの昨年度と同じ事業であった。来年度は防災・交通安全など別の分野での連携を模索したい。 ②来年度以降も継続的に参加し、可能であれば参加する団体数を増やしていきたい。	・公民館まつりで、本校の生徒がボランティアで地場野菜の販売を手伝ってくれて、非常に評判が良かった。	①地域貢献デーの清掃活動において、P T Aの美化委員会や同窓会役員とともに行うことで、生徒が地域の一員であることの自覚を持たせることができた。 ②ダンス部や演劇部等が地域の公民館等で発表を行った。また、陸上競技部が地域の小学校でかけっこ教室を行う等、地域の子どもたちと交流を持つことができた。	①相模原地区交通安全高校生・P T A大会の事務局校として、P T Aと生徒会とが連携し、地域の交通安全に資する活動を行う。 ②部活動の活性化と地域貢献のために、積極的に地域で活動発表する機会を作っていく。
5	学校管理 学校運営	①生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化するとともに、地域と連携した災害時の体制整備を研究する。 ②教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む組織の育成を図る。	①生徒に災害時の行動等について考えさせる防災教育を行うことで防災意識を向上させる。 ②教職員のICT(イノベーション・チャレンジ・チームワーク)を推進する意識を高める。	①生徒会等の生徒を対象としたDIG研修を実施し、防災意識を向上させる。また、DIG研修等において、自治会等の地域との連携を計る。 ②学校業務についての校内研修を定期的に行い、学校組織の理解を深めることで、組織的な業務改善を図る。また、学内グループウェアやGoogle Appsの利用を進め、情報共有やデータ移動の業務の効率化と負担の軽減を図る。	①DIG研修により生徒の意識は向上したか。また、地域との連携が実施できたか。 ②組織的な業務改善が行われたか。 学内グループウェアやGoogle Appsの利用が進み、情報共有やデータ移動の業務の効率化と負担の軽減がされたか。	①生徒会の福祉委員の生徒を対象にDIG研修し、フィールドワークを通して、防災意識を向上させることができた。 ②アンケートの結果、78%の職員が指導する能力が高まった、やや高まったと回答した。	①今年度のDIG研修は、地域との連携ができなかったもので、来年度は実施したい。また、対象が一部の生徒なので、学年単位の生徒対象のものに拡大したい。 ②生徒にICT活用指導する能力が高まったと感じる割合を80%を目標に研修・研究を進める。	・ICTを授業で活用することで、生徒の理解が高まっていると思う。	①福祉委員の生徒を対象にしたDIG研修と、フィールドワークを通して、防災意識を向上させるとともに、地域での防災活動の重要性を理解させることができた。 ②生徒にICT活用指導する能力が高まったと感じるかというアンケートの結果、78%の職員が高まった・やや高まったと回答した。	①DIG研修を学年単位等で実施することで、防災意識の一層の向上を図る必要がある。 ②ICTの利活用方法を、教科を超えて共有することで、効果的な教育活動へつなげるとともに、業務の効率化と負担の軽減を推進する。